

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

馬文化を活用した地域活性化計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

帯広市

3 地域再生計画の区域

帯広市の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 帯広市は、十勝川水系の豊かな水と日高山脈のふもとに広がる肥沃な大地に生まれ基幹産業である農業と生活・文化が深く結びつきながら、都市機能や商業機能などが集積する十勝圏の中核都市として、また、豊かな自然環境と美しい農村景観、日本で唯一のモール温泉など観光資源にも恵まれ発展してきた。

(2) 帯広の開拓が始まった明治16年以降、その礎を築いたのは入植者とともに苦労を分かち合ったのが農耕馬といっても過言ではない。未開の原野を切り開き、土地を耕し、農作物の運搬等、馬との暮らしは帯広の開拓の暮らしに根付いていた。娯楽のない過酷な開拓生活環境の中にあって、人々は農作業の合間やお祭りに、馬同士を引っ張らせたり、荷物を積載した馬そりを曳かせて速さを競い合う「草ばんば大会」等を催して娯楽とした。

明治の開拓農業から農業の機械化・近代化が進展していく中、農作業における農耕馬の役割、馬と人との暮らしが必然的に希薄となり、昭和30年代後半にはトラクターの導入により農耕馬の飼養頭数も激減した。

(3) 北海道の農用馬は、入植当初の北海道和種（道産子）から、ヨーロッパからペルシュロン種、ブルトン種及びペルジャン種が導入され、これらの品種間の交配種や道産子との交配種が改良され、昭和22年から北海道において、「ばんえい競馬」が開催されてきたことにもとない、世界一の牽引力を持つ日本輓系（ばんけい）種が農用馬として育種改良されている。全国の農用馬の生産の約9割は北海道で、さらにその約3割は十勝で生産されており、「ばんえい競馬」はその支えとなっている。

(4) 平成18年、「ばんえい競馬」主催者である北海道市営競馬組合（帯広市、

旭川市、北見市、岩見沢市の4市を構成とする一部事務組合) から帯広市を除く3市が撤退を表明し、60年の歴史を持つ「ばんえい競馬」に幕が下ろされることが決定的となった。

しかしながら、帯広市民ほか多くの人々から多額の寄付金が寄せられる等「ばんえい競馬」存続への活動が市民を中心に盛り上がり、帯広市と関係機関の協議の結果、平成19年度から帯広市単独で世界で唯一の農用馬による「ばんえい競馬」を開催することとなった。

(5) 「ばんえい競馬」の存続問題は、全道で飼養されている「ばん馬」の繁殖技術、飼養技術及び装蹄技術等をいかに維持するかの問題を顕在化させることになる。さらに、北海道文化遺産「北海道の馬文化(ばん馬・日高サラブレッド)」をいかに後世へ伝承するかが課題となるとともに、北海道に残る馬との暮らし等の馬文化への理解醸成が急務となっており、市民が中心となってNPO法人「とまち馬文化を支える会」を設立したところである。

(6) このため、

① 北海道開拓の礎となっている馬文化への理解醸成を図るため、馬文化の情報発信、小学校等への出前馬学講座の実施やシンポジウムの開催を実施する

◎数値目標

項目	19年度	20年度
馬文化新聞発行	2回発行	4回発行
機関紙発行	2回発行	3回発行
馬の知識冊子発行	0回発行	1回発行
シンポジウム開催	0回開催	1回開催
出前講座の実施	0回実施	4回実施

② 市民運動によって存続した世界で唯一の「ばんえい競馬」を市民の財産として存続させるためには、市民全員参加型の「ばんえい競馬」として市民に普及・啓発する必要があるため、競馬場でのポニーやばん馬の体験乗馬等の各種イベントを7回(うち2回共催)実施する

③ さらに、馬文化の理解醸成及び「ばんえい競馬」の普及・啓発を図るため、地方公共団体とのネットワークを創出するとともに、馬関係のNPOや民間団体等とのネットワークも創出することを目標とする。

5 目標を達成するために行う事業

5-1 全体の概要

帯広市とNPO法人「とち馬文化を支える会」との協働事業として、官民パートナーシップ確立のための支援事業「十勝馬文化活性化推進事業」により馬文化の情報発信、出前馬学講座の実施やシンポジウムの開催等を実施するとともに、中央団体及び民間団体等と連携して各種イベント等を実施することにより市民全員参加型の「ばんえい競馬」の普及・啓発を図っていく。

さらに、帯広市は、馬産振興及び馬文化の継承のため、ばん馬まつり、国際チャーター便誘致、障害者乗馬講演会・体験会開催、競馬場周辺景観整備、また、ナイター開催日の日数を増やす等帯広市を挙げて「ばんえい競馬」に係る施策を展開している。

5-2 法第5章の特別措置を適用して行う事業

該当なし

5-3 その他の事業

5-3-1 支援措置

官民パートナーシップ確立のための支援事業（内閣府）【B2001】

(1) 事業名

十勝馬文化活性化推進事業

(2) 事業実施団体

NPO法人「とち馬文化を支える会」

(3) 事業概要

帯広市とNPO法人「とち馬文化を支える会」との協働により、馬文化への理解醸成を図るため、馬文化の情報発信、出前馬学講座の実施やシンポジウムの開催及び各種イベント等を実施し、もって、馬文化の活性化を図るとともに、馬文化を活用した帯広市の地域活性化にも資する。

(4) 地域再生計画との関連

地域再生計画を策定し効率的に推進するためには、当該事業における馬文化の情報発信、出前馬学講座の実施やシンポジウムの開催及び各種イベ

ント等の実施が重要な要素となっている。

5-3-2 独自の取組

ばん馬の生産振興と馬文化の継承及び観光の推進を図るため、帯広市各部が連携して以下の事業を実施。

- (1) 馬の歴史と文化を学ぶため、PR用のばん馬2頭（帯広市が飼養管理）を用いて各種イベント及び小中学校・保育所等への訪問を実施
- (2) 関係機関と連携し馬文化をテーマにした「馬耕まつり」の開催
- (3) 市民・障害者に乗馬セラピーの効果を知ってもらうため、障害者乗馬講演会及体験会の開催
- (4) ばん馬生産振興を図るため、「ばんえい競馬」入賞の馬生産農家に褒賞金の交付
- (5) 競馬場の集客イベントとして、関係機関と連携して「ばん馬まつり」の開催支援
- (6) 競馬場のイメージアップ及び観光スポットとしての景観向上のため、競馬場の周辺環境の整備
- (7) 競馬場へのアクセス向上のため市道交通案内標識の設置
- (8) 空港を利用する観光客へのPRのためバス広告の実施
- (9) 本州・道内各地で「ばんえい競馬」のプロモーションの実施
- (10) 「ばんえい競馬」を観光資源として、外国人観光客を誘致するため、国際チャーター便を誘致

6 計画期間

認定の日から平成21年3月まで

7 目標達成状況に関わる評価に関する事項

- (1) 馬文化の情報発信のため、新聞・機関紙等の発行回数及び発行部数を把握し評価する。
- (2) 出前講座を実施した小学校等の校数及び児童・生徒数を把握し評価する
- (3) シンポジウム・イベント等の開催回数及び参加人数を把握し評価する
- (4) 地方公共団体・民間団体等とのネットワーク形成状況を把握し評価する。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

該当なし